師自らが高まることだと思います。教師同士がお互いに教え合い、研究し合おうとする気持ちを持つことが不可欠なことではないでしょうか。

庄　司　研究仮説にかかわることですが、2～3段階程度に分けて具体化をした方がよい場合が多いように思っています。そして、研究仮説が児童生徒の日常の学習活動につながっているか、他の先生方とのつながりが見えやすくなっているか、十分に吟味することが大切だと思います。　年齢差、経験の差、男女差等により教員一人一人のニーズや課題などが異なる訳ですから、主任の先生は研究仮説と一人一人の先生とのつながりを見えやすくしてやることも大事になってくるのではないでしょうか。

二つ目としては、毎日の学びが子供の成長に具体的に関わるように、イメージしやすいテーマの立て方を工夫することも大切なことではないでしょうか。

最後に、「研究すること」は、若さを保つ秘訣にもつながるのではないかと思います。

佐久間　最後になりますが、県教育委員会として、各学校の研修に望むことがありましたらお聞かせください。

高　原　教員は、日々世の中が変化する中で子供を指導し、そして教育に関する専門職である以上は、常に研修していかなければなりません。このことを前提として教育委員会として望みたいことを3つお話します。

一つは、今までの校内研修の形をそのまま残すということでなく、工夫していただきたいということ。

そのためには、先進校や先進地区に学びながら研修体制を確立し、児童生徒がこれからの社会の変化に主体的に対応するための基礎的・基本的な力が身に付くようにするための研究に取り組んでいただきたい。

また、その取り組みも各学校におられる一部の優れた先生の力だけに頼っていたのでは組織力は高まりません。その先生が転勤するとその学校が駄目になってしまうようではこまるので、組織による教育力の向上が図れるよう、研修及び研究体制を整える必要があるのではないでしょうか。

二つ目としては、量より質、形より内容への発想の転換を図ってほしいと思います。

無駄なことに時間をかけ、日常の授業が学校の組織としての教育課題としっかり結び付いているか、本当に大切なことを見失っていないかという点に十分留意して研修を進めていってほしいと思っています。

三つ目としては、研修の機会を与えることは教育委員会の責任です。今後も、先生方が研修しやすいよう積極的にバックアップしていきたいと考えています。

終わりに、これからは何かと大変な時代になってきますが、最終的には、先生方が研修を大事にされない限りは、良い授業も生まれないし、確かな学力も子供達に身に付かないのではないかと思いますので、どうかそれぞれの学校でそれぞれの工夫をされ、すばらしい研修を進めていってほしいと思います。

佐久間　先生方には何かとお忙しいところ、貴重なご意見、お考えを頂戴いたしまして本当にありがとうございました。

（平成8年6月7日、福島県教育センター121研修室）